

哀悼詞（本宮二香）

百歳の人生 竟に全からず

哀しむ 君が客と 為りて 黄泉に 到るを

墓前 涙を 呑んで 冥福を 祈る

腸は 断ず 薫香 一片の 煙

百歳人生竟不全 哀君爲客到黄泉
墓前吞淚祈冥福 腸斷薫香一片煙

解説 人の死を悼み、墓前に吟じ捧げるための詩。

語釈 ※黄泉＝黄泉とは、日本神話における死者の世界のこと。古事記では黄泉國と表記される。※冥福＝仏教や道教などの宗教体系において、現世とは異なる基準に基づいて得られる幸福のこと。※薫香＝よいかおり。芳香。

通釈 百歳まで生きる命も、終に半途にして、悼ましくも君は、永久に歸らぬ客となつて、あの世へ向かつて旅立たれた。生前親交のあつた私は、お墓の前で涙を呑んで、君が来世の幸福をお祈りするが、ここに手向ける焼香の煙の一すじを見て君はもう、仏に成つたかと思つたと、悲しくなつて、腸もちぎれるような思いがする、